

～D。サイエンス！ ホンモノ体験から広がる世界～ 多摩六都科学館



世界一のプラネタリウムと、5つの展示室を備える多摩六都科学館。見るだけでなく、実際に科学を「体験」できる

「それでは町の灯りを少しづつ落とすとしていきます」。耳に心地よい解説スタッフの声とともに灯りが消えたドームには、思わず感嘆の声を上げてしまうほどのまばゆい星空が広がりました。約1億4千万個の星を高輝度LED光源で映し出し、世界一に認定された多摩六都科学館の「最も先進的なプラネタリウム」は、その美しさと迫力で長蛇の列ができるほどの人気ぶりです。

大型ドームプラネタリウムとホンモノ体験ができる展示室で、子どももおとなも楽しめる多摩地区の人気スポット「多摩六都科学館」は、今年3月、開館20周年を迎えました。

最先端の科学情報と科学する楽しさの両方を兼ね備え、魅力あふれる多摩六都科学館を、経営管理グループの安倍寛子さん、春口芽生さんにご案内いただきました。

問合せ 多摩六都科学館 ☎042・469・6100

市民 パルタージ

このコーナーでは、市内在住の市民編集委員が清瀬に関連する施設や事業者の巡って、清瀬の特徴を紹介いたします。



市民編集委員

高橋玲子さん
(上清戸在住・会社員)

5市での運営



今回お話しいただいた安倍さん(右)と春口さん

多摩六都科学館は、緑と生活の調和をコンセプトに、未来を担う子どもたちと地域の生涯学習を推進するための拠点として、清瀬市・小平市・東村山市・東久留米市・西東京市(平成13年に田無市と保谷市が合併)の5市(設立当時6市)が施設の設置を検討し、平成6年3月に開館しました。

開館当初の来館者は1か月で約3万人と、期待の高さが伺えます。現在は5市が共同で設置する多摩六都科学館組合の下、指定管理者制度を導入して管理・運営をしています。

ノーベル物理学賞受賞の小柴昌俊東京大学名誉教授の記念講演や、Kavli IPMU(東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構)※から講師を招くなど、最先端の専門情報を提供し、また、秋篠宮ご夫妻がご視察されたことで、世間からの注目も高まりました。

一方で、オタマジャクシの飼育、タケノコの根の観察、カメラやモニターの分解と、身近にある不思議を発見するところから科学する楽しさを感じてもらえるよう工夫もされています。

※数学と物理学の連携により宇宙の最も根源たる謎(暗黒物質など)の解明に挑む東京大学総長室直属の国際高等研究所。

D。サイエンスの 展示室とラボ

「2つのボールはどっちが速く落ちると思う?」「チャレンジの部屋」ではサイクロイド曲線やジヤイロ効果など、実際に試して科学の不思議を体感できます。一番人気のムーンウォーカーは多少並んでも試してみたい楽しさです。

人体の構造を来館者の体に合わせ光で映し出したり、自転車をこぐ足の骨格が見えたりするのは「からだの部屋」。他に「しくみの部屋」「自然の部屋」「地球の部屋」と合計5つの展示室があり、興味を引かれるものがたくさんあります。どの部屋でも、スタッフや赤いベストのボランティアスタッフが、丁寧な説明をしてくれます。

なかでもにぎわっているのは、「チャレンジの部屋」以外の4つの展示室に設置された「ラボ」と呼ばれるスタッフとの交流の場。パズルを解いたり、組み立てたり、実験したり。その時々によって内容は変わりますが、10分程度で気軽に参加できるものもあります。あるラボでは、液化現象が起る仕組みをビーカーに入れた石と砂で再現していました。



大人気の「ラボ」。スタッフが大人やボランティアの方に丁寧に説明してくれる

97人のボランティアスタッフが、ラボを企画運営したり、展示物を充実させたりして展示室を盛り上げています。利用者にリピーターが多いのは、こうしたスタッフのコミュニケーションが、多摩六都科学館の大きな特徴です。

「世界一」に認定されたプラネタリウムの反響は良好で、その本格的な映像におとなの利用者も増えました。同館から見える今夜の星空から星座の話へと、専門スタッフがいっぱいで解説してくれるのも魅力です。

今後の目玉は「七夕プラネタリウム」と「天の川星空さんぽ」。神秘的な世界に触れると、雑多な日常でささくれだった心が癒されていくように感じます。少し難しいと思われる小さな子どもには「キッズプラネタリウム」も用意されています。多摩六都科学館キャラクター「ペガロク」のアニメーションはちよつとのぞいてみたくなるかわいらしさです。ちなみにこのアニメは、清瀬にある「TYOアニメーションズ」というアニメーションスタジオが制作しています。臨場感あふれる地球の姿が楽しめる大型映像「地球ミュージアム」も迫力満点です。

教育活動への貢献

平日の午前中は、学習指導要領の内容に沿ったプラネタリウム学習投影を行っています。清瀬市では市立小学校全校で4年生が見学に行きますが、最初の場面で自分の学校からのパノラマが映し出されると、歓声が上がるそうです。今年度から新たに小学6年生用のプログラムも用意され、発展的な学習内容にも対応できるようになりました。

幼児向けのプログラムもありました。幼児向けのプログラムには、「電気」「空気」「顕微鏡」などをテーマにした学習プログラムを用意もしています。遠方の学校など、希望があれば「出前たまろく実験ショー」を行っていただけます。

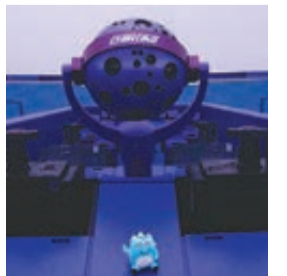
5市在住の小学生には、入学の際、全員に無料入館券(有効期限1年)をプレゼントしています。カフェや休憩室、屋外展示もあるため、1日中楽しみながら科学に親しめます。

地域に愛される 科学館をめざして

平成24年度から指定管理者が運営することになり、利用者アンケートの声をすぐに反映できるようになりました。そこに反響があることで、スタッフもやりがいを感じるそうです。お客さん・ボランティア・地域の方との一つ一つのつながりが、運営を支えています。中学校の職場体験で訪れた生徒

取材を終えて

「近くにこんなに本格的な施設があるなら、もっと通いたい」と、早速リポートしてきました。サイエンス友の会というお得な年間パスポートもあります。清瀬からは車か路線バスの利用が多いようですが、自転車でも来られている方もいると聞き、にわかにならなりました。夏の星空を見に、ぜひまた訪れたいです。



プラネタリウム「CHIRON II」(ケイロンツウ)。手前には「ペガロク」のぬいぐるみがいっしょ

多摩六都科学館の催し物

◎ドワーフ/多摩六都科学館 ペガロク

◆サイエンスカフェ宇宙 2014
数学と物理学を結集し、Kavli IPMUの講師とともに宇宙の謎に迫りませんか。お茶やお菓子を楽しみながら宇宙について語り合うサイエンスカフェです。

対象 中学生以上の方。定員80人(応募者多数の場合抽選)

日時 ①「整数論：素数の話」= 6月21日(土)午後3時～4時30分 ②「インフレーション理論、観測的実証への期待」= 7月6日(日)午後3時50分～5時20分

講師 ① Kavli IPMU 特任助教 近藤智氏 ②自然科学研究機構機構長 佐藤勝彦氏

費用 入館料(おとな500円・参加する高校生以下は無料)

申込み ①6月9日②6月23日(必着)までに開催日・イベント名・郵便番号・住所・氏名・年齢(学年)・電話番号を記入し、ホームページ専用フォーム <http://www.tamarokuto.or.jp/> または、はがきで 〒188-0014 西東京市芝久保町5-10-64 同館へ。(抽選の後、参加券を送付)


近藤智氏


佐藤勝彦氏